


# 歯周病治療で感染リスク減

口腔ケアでコロナ  
重症化の予防

①

いまだ、終息がみえない新型コロナウイルス感染症ですが、歯周病のある人は感染しやすいことが分かっています。新型コロナウイルスのウイルスが細胞にくっつく場所をレセプターと言いますが、ウイルスがこのレセプターにくっつきやすくなるように、歯周病菌が手助けをしていることが分かっています。歯周病菌のタンパク質分解酵素がレセプターの周りの粘膜を溶かし、ウイルスをくっつきやすくしているのです。しかも、歯周病の人は新型コロナウイルス

十勝歯科医師会理事 橘尚文

に感染しやすくなるだけでなく、感染後に悪化しやすいことも最近明らかになっています。これも歯周病菌のタンパク質分解酵素が原因です。タンパク質分解酵素が感染を活性化させる作用をもっているのです。

歯周病がある人とならない人で新型コロナウイルス感染症の重症化の割合を調べたところ、歯周病がある人の中で重症化した人が12・8%いたのに対して、歯周病がない人の重症化率は2・3%にとどまったという結果がでました。この結果からも、新型コロナウイルスの感染リスクを下げるためには、口の中の歯周病菌の量を減らすことが重要であるということが理解していただけるかと思います。

コロナ禍であっても歯科への受診は控えるのではなく、むしろ積極的に受診して必要な治療はしっかりと受けましょう。そして、治療終了後も定期的な専門的口腔（こうくう）ケアを受けることによって、口腔内環境を整えましょう。

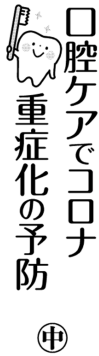
その結果、新型コロナウイルス感染症への感染を予防し、重症化のリスクを下げる可以考虑です。

（たちはな歯科医院院長）

◇

口の中の細菌を減らす「口腔ケア」。適切な口腔ケアは、新型コロナウイルスの感染・重症化の予防につながることが明らかになっている。歯と口の健康週間（6月4日～10日）に寄せて、十勝歯科医師会の橘尚文理事の寄稿「口腔ケアでコロナ重症化の予防」を、今週から3週にわたって連載します。

# 歯周病と基礎疾患深い関係性



新型コロナウイルス感染症に感染したときに、基礎疾患があると重症化しやすい、ということは、よく知られていることと思いますが、この基礎疾患といわれているさまざまな病気は、歯周病との関係性が深いことが分かってきています。

歯周病が進行している人は歯茎の血管から、歯周病菌や身体の免疫反応として分泌される炎症性サイトカインが血液に乗って全身へ運ばれ、さまざまな臓器に拡散していきま

十勝歯科医師会理事 橘尚文

す。糖尿病や高血圧、心臓病などの基礎疾患と呼ばれている病気が起きている人の臓器にも、この炎症性サイトカインがたくさん届いています。

歯周病があることよって、この炎症性サイトカインの過剰な分泌を促し、それらの持病を悪化させる可能性があるので。新型コロナウイルスに感染してしまったときに、歯周病によりその持病をコントロールができていないことが、新型コロナウイルス感染症を重症化させるリスクを高めることになるのです。

また、新型コロナウイルス感染症で最も起きやすいのはコロナ肺炎と

いわれていますが、歯周病のある人は口の中に常に炎症が起きているため、肺にも当然炎症性サイトカインがたくさん運ばれることになりま

す。歯周病がない人よりも肺炎の炎症がひどくなりやすく、過剰な炎症性サイトカインの分泌による「サイトカインストーム」と呼ばれる重症化が容易に起きてしまうということになるのです。


歯周病をコントロールすることによつて全身性基礎疾患をコントロールし、結果として新型コロナウイルス感染症の重症化を防ぐと考えられるのではないだろうか。

そして、その歯周病をコントロールするためには、口腔（こうくう）ケアが最も重要となるのです。

（たちばな歯科医院院長）

# 定期的プロケアで感染症防ぐ

口腔ケアでコロナ  
重症化の予防

①

歯科医師や歯科衛生士が口の中をきれいにすることを、プロフェッショナルケア（プロケア）もしくは専門的口腔（こうくう）ケアと言います。このプロケアを定期的に受けることで次に述べる三つの良い効果を得ることが分かってきました。

まず、一つ目は「手術の入院期間が短くなる」です。手術の前にプロケアを行ってから手術を受けた人は、平均して2割も入院期間が短くなることが明らかになりました。

十勝歯科医師会理事 橘尚文

二つ目は「肺炎が少なくなる」です。定期的にプロケアを受けることで、誤嚥（ごえん）性肺炎のリスクが軽減されることが分かってきています。肺炎は日本人の死因5位の病気です。口をきれいにすることで命を守ることもつながるということです。

そして、三つ目は「インフルエンザの発症が少なくなる」です。在宅療養の高齢者が定期的に専門的口腔ケアを受けることで、自分で歯を磨いているだけの人に比べて、インフルエンザの発症率が約10分の1になったという結果が出ました。

インフルエンザと新型コロナで

は、ウイルスが細胞にくっつく場所（レセプター）は異なりますが、歯周病菌が発症を手助けするメカニズムは同じと考えられています。専門的口腔ケアでインフルエンザの発症を防げるということは、新型コロナに対しても同じことが言えるのです。

また、最近の報告として、一般的な歯磨き剤に含まれるラウリル硫酸ナトリウム（SDS）などの界面活性剤が、新型コロナウイルスを不活化させる可能性があることが示唆されています。

普段から自宅でのホームケアをしっかり行い、なおかつ定期的に歯科医院でプロケアを受けることが、より新型コロナウィルス感染症に対する予防につながるようになるのではないだろうか。

（おわり、たちばな歯科医院院長）